

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	放送映画リテラシーE2（広告・イベント論2）	
科目基礎情報							
開設学科	放送芸術科		コース名			開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に提示する。						
担当教員情報							
担当教員	平岩 基			実務経験の有無・職種	有・CM制作会社、広告代理店、映画会社		
学習目的							
放送・映像業界における仕事は、チームワークで制作になるため、スタッフの業務は細分化され全体像の把握が難しいのが現状である。また近年、放送芸術の仕事領域が格段に広がる中において、スタッフにも新しい発想が求められ始めている。本講座では映像が発明されて以来、歴代の制作者たちが苦心して作り上げてきた「映像手法」や「広告手法」を通して、放送・映像制作クリエイティブ、視聴者を魅了する映像の本質を理解することを目的としている。							
到達目標							
映像クリエイティブのパターンを知ることで、映像手法の引き出しを増やすことができる。							
映像の本質を知ることで、業務遂行時により柔軟な対応ができるようになる。							
なぜその映像が生まれたのか、どのように利用されているのか。紹介する映像・資料を咀嚼し、自らの専門領域に応用できるようになる。							
教育方法等							
	毎回設定されたテーマ別に、アーカイブ映像を交えながら、「サンプル視聴」→「ポイントの整理」→「定着」を行う。基本的に座学であるが、生徒の積極的な参加を促すために「アンケート」「小テスト」などを適宜実施する。授業終わりに質問を受け付ける。やむを得ず、内容が前後、または変更する場合がある。						
	授業時数の4分の3以上出席しない者は、定期試験を受けることができない。遅刻・途中退席をしないこと。（正当な理由がある場合は、その旨、申し出ること）授業中に内部資料を扱うことがあるため、授業内容をSNSに書き込むことを禁ずる。授業中は机上にノート、配布物、筆記具以外を置かない。特にスマホ、ゲーム機はカバンにしまうこと						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	60%	前期、後期それぞれの期末テストによる				
	小テスト	0%					
	レポート	20%	レポートの提出による				
	成果発表表 （口頭・実技）	0%					
	平常点	20%	授業態度による（遅刻、居眠り要注意）				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1回	音と映像		映像における音の重要性を知る。シンクロ、サウンドトラック、BGMの意味について。				
2回	コマソン		コマソンとは何か。いつの間にか覚えてしまうコマソンがどのように作られるかを知る。				
3回	タレント論(1)子役		ドラマに欠かせない子役について。子役の歴史、子役が抱える問題点までを知る。				
4回	タレント論(2)外タレ		日本のCM史を彩ってきた外国人タレント。外タレの果たしてきた役割を知る。				
5回	タレント論(3)素人・老人		超高齢社会・日本。今後、老人タレントが果たす役割を知る。				
6回	衣装論(1)制服		映像における衣装の意味について知る。白衣から学校制服まで。				
7回	衣装論(2)悪と戦う制服		制服を通してのヒーロー論。「ウルトラマン」「ゴレンジャー」「セーラームーン」				
8回	ダンス論(1)映像とダンス		映像の中のダンスシーンに注目。ダンスの役割を知る。				
9回	ダンス論(2)ダンスのケーススタディ		「世界3大パレエ」から、MVまで。ダンス映像のバリエーションを知る。				
10回	映像心理学(1)恐怖訴求		人間が持つ恐怖心を利用する映像。恐怖訴求について知る。				
11回	映像心理学(2)射幸心訴求		人間が持つ射幸心とは何か。ギャンブルや宝くじに見る射幸心の煽り方を知る。				
12回	映像心理学(3)比較		「使用前」「使用后」。見た目の違いを利用する比較映像について知る。				
13回	映像心理学(4)映像とプレゼン		ますます広がる映像の利用法。映像を使ったプレゼンテーションについて知る。→レポート提出				
14回	クライアント論		放送・映画におけるクライアントの役目とは何か。業界について知る。				
15回	映像の可能性		ますます拡大する映像。映像の可能性についてのまとめ。				